

森林景観整備シリーズ

第8回

森林景観整備はどう進めればよいのか

技術士（森林部門） 由田 幸雄



はじめに

これまで説明してきた森林景観整備の内容は平易なもので、その実施は難しくはありません。しかし、実際にはあまり行われていません。なぜ行われないのか、また実施するためにはどうすればよいのかを説明します。

1 景観整備は何が難しいのか

景観整備が必要であっても実施されないのは、何をしなければいけないのかがよく理解されていないからではないでしょうか。景観整備の内容が分からなければ実施できません。その内容については、本シリーズの第2回で次のことを説明しました。

景観（眺め）は視点（見る位置）と眺める対象との関係で成立しています。（図1を参照）

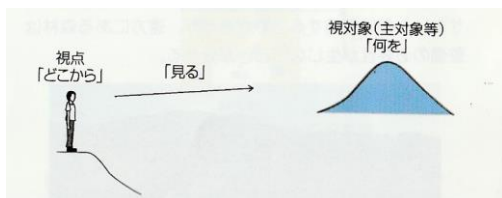


図1 視点と眺める対象

見る人がいなければ眺めは成立しません。つまり、眺めは「どこから（視点）」、「何を（眺める対象）」、見るかで成立しており、視

点と眺める対象との関係が重要なのです。両者の関係を整えてよい眺めとするためには、視点を適切な位置に設けるとともに、眺める対象がよく見えるよう見通しを確保することです。勿論、景観整備の内容はこれだけではありませんが、特に重要なのは以上の2つです。

こう説明すると、そんなことは分かっているといわれそうですが、この簡単なことが実際にはできていません。その具体例としてお台場海浜公園にある自由の女神像の眺めについて説明します。



写真1 視点と自由の女神像

写真1は自由の女神像とそれを眺める位置

(視点) を撮ったものです。視点位置は手前の説明板のあるところです。ここから眺めると女神像は大きすぎず、小さすぎず、程よい大きさで見ることができます。視点の位置はよいのです。問題は視点前方にある街路樹によって女神像の見通しが阻害されていることです。よい眺めとするためには街路樹を取り除けばよいのですが、そうしないのはここに視点を設けたことが忘れられているからではないでしょうか。

次は同じお台場にある展望デッキからの眺めについて説明します。

写真 2 は、異なる時期に展望デッキからレインボーブリッジを撮ったものです。



写真 2 展望デッキからレインボーブリッジを臨む

(上) 2018年8月撮影

(下) 2019年9月撮影

(上) の写真では、展望デッキの前方に樹木があり、枝葉の先端がレインボーブリッジにかかっておりスッキリとした眺めにはなっ

ていません。レインボーブリッジの見通しが阻害されているのです。

(下) はその翌年の 2019 年に撮ったものです。展望デッキの前方にあった樹木がなくなり、水面(海)がよく見えています。レインボーブリッジの見通しがよい眺めになりました。これを見ると、レインボーブリッジの見通しをよくするために邪魔な樹木を取り除いたのだと思います。しかし、実際はそうではありません。樹木は道路等を整備するために取り除かれたのです。このことを説明します。

写真 3 は異なる時期に展望デッキの前方の状況を撮ったものです。



写真 3 展望デッキ前の状況

(上) 2013年9月撮影

(下) 2020年10月撮影

(上) の写真では、展望デッキの前方(写真左側)に街路樹があります。これが生長したためレインボーブリッジの見通しが阻害され

たのです。(下)は7年後の2020年に撮ったものです。道路が整備され、さらに写真左側にはレインボーブリッジを眺めるための場所が整備されています。この整備を行うために支障となる街路樹が取り除かれたのです。つまり、街路樹が取り除かれたのはレインボーブリッジの見通しをよくするためではなかったということです。

したがって、仮にこの道路の整備が行われなかった場合、街路樹がさらに大きくなり、その枝葉でもってレインボーブリッジが見えなくなるまで景観整備は実施されないのではないでしょうか。何故そう思うかという、見通しの確保では、見たいものだけでなく、そのまわりもスッキリと見えるようにすることが重要ですが、そのことが理解されていないからです。見たいもののまわりに邪魔なもの(見たいものでないもの)がない方がよいことは写真2の比較でわかりますが、もう一つの事例でこのことを説明します。

写真4は異なる時期に通路から名古屋城の天守閣を撮ったものです。

(上)の右手前には西南隅櫓の修復工事のため、そのまわりを覆っているシートが見えています。このシートは、天守閣にはかかっていませんが、気になります。シートが邪魔だなあ、と思います。そう思うのは、天守閣の見通しが阻害されているからです。

(下)は工事完了後に撮ったものです。天守閣のまわりに邪魔なものがなくスッキリしています。なお、右手前には西南隅櫓が見えていますが、これは見たいものなので邪魔だとは思いません。

両方とも天守閣そのものはよく見えています。しかし、天守閣のまわりもよく見えている(下)の方が好ましく感じられます。見たいもののまわりに邪魔なものがない方がよいのです。

見たいものの見通しが阻害されても一向に

改善されないのは見たいものが見えていれば見通しが悪いとは思わないからではないでしょうか。



写真4 通路から天守閣を臨む

(上) 2013年7月 (下) 2017年9月撮影

以上の2つの事例から、見通しがよいとは、見たいものが見えるだけでなく、そのまわりに邪魔なものがない状態であることが分かります。

2 森林景観整備は何が難しいのか

お台場海浜公園等の事例で見通しの改善が実施されない理由を説明しました。森林景観整備でも同じことがいえますが、さらにその実施を難しくしているものがあります。それは、山地では視点のまわりの状況が市街地の公園等とは大きく異なり、自然度が高いということです。お台場海浜公園の事例では樹木は街路樹しかなく、まわりは人工物が多く自然度は低いです。しかし、山地では、視点の

まわりは樹林、森林でおおわれており、自然度がきわめて高いです。自然度の低いところでは街路樹の伐採は難しくはありませんが、自然度の高い山地では自然のままがよいとの考えがあるので樹木の伐採は難しくなります。つまり、自然度の高い山地では見通しが阻害されていても邪魔な樹木を取り除くのは、より難しくなるということです。これが森林景観整備を難しくしている大きな理由です。以上のことを具体例で説明します。

写真 5 は福島盆地の中央部にある信夫山公園に設けられた展望台の前方の状況を撮ったものです。写真左側が展望台です。右側にある樹木（ソメイヨシノ）が奇妙な形をしています。これは、展望台から福島市街地を眺めたときに見通しを邪魔していた樹木の上端部分を取り除いたためです。**図 2** はその状況を示したものです。樹幹を中ほどで切断したのです。そのため樹形が Y の字のようになりました。



写真 5 展望台前にある樹木の状況

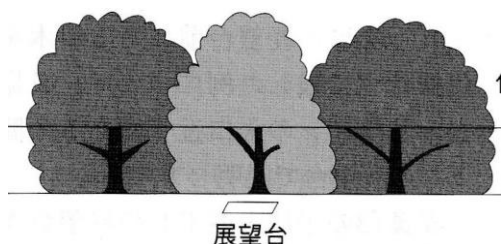


図 2 樹幹を中ほどで切断した状況

こうしたのは、樹木を根元から伐採すると批判されると思い、樹木の邪魔な部分だけを取り除いたためです。信夫山公園は都市部にある公園ですが、展望台のまわりは樹林で囲まれており自然度が高いのでお台場海浜公園のようにはいかないのです。

しかし、幹の途中から伐採したことにより市街地は見えるようになりましたが眼前にある樹木の形状はきわめて不自然なので大変不評でした。このため、私（筆者）は公園を管理している福島市に根元から伐採するよう提案し、伐採してもらいました。伐採後はスッキリとした眺めとなり好評でした。

もう一つ別の事例を紹介します。

写真 6 は、龍王峡（日光市藤原地区）の歩道沿線に設けられた展望台の状況を撮ったものです。眺める対象は滝です。なお、龍王峡は日光国立公園の特別地域に指定されており、多くの観光客が訪れる観光名所です。



写真 6 展望台の状況

展望台の中央に説明板があり、そこが眺める位置です。しかし、その前方には1本の樹木の根元から分けつした幹が左右に大きく広がっています。このためここからは見たいもの（滝）がよく見えません。それでもこの樹木が取り除かれないのは、説明板の右側に移動すると滝が見えるようになるからです。しかし、右側に移ってもよい眺めは得られないの

です。

写真7は、その右側から滝を撮影している人を撮ったものです。



写真7 シャガんで滝を撮影する観光客

撮影者はしゃがんだ姿勢で撮っています。なぜ窮屈な姿勢で撮っているのかというと、展望台前に張り出した幹や枝が写らないようにしているためです。つまり滝の見通しが阻害されているのです。この見通しの悪い状態は長く続いています。それでも樹木が取り除かれないのは、滝そのものは見えていることに加えて伐採すると批判されるのではないかと危惧するからです。

龍王峡の場合は見たいものの見通しが阻害されている事例ですが、次は見たいものが全く見えない場合について説明します。

写真8は、奥日光にある中禅寺湖展望台の眺める場所を撮ったものです。



写真8 中禅寺湖展望台の眺める場所の状況
視点はベンチのあるところ。視点前方

に樹木の枝葉が広がっており、遠方を見通すことはできません。なお、この樹木は、太さ10cm程度のヤマハンノキで、展望台が整備された後に侵入してきたものです。こうなると樹木を取り除くしかありませんが、この状態のまま放置されていました。伐採すると批判されるのではないかと危惧するからです。

写真9は、日光市から以前の見通しのよい状態に戻して欲しいとの要望を受けて、見通しを遮っている樹木を取り除いた後に撮ったものです。



写真9 見通しの改善後の状況

見通しを改善した後の眺めは大きく変わりました。前方正面に男体山が見え、その手前には中禅寺湖が見えるようになりました。写真8と写真9を比較すると、誰しもが見たいものが見えるようになった写真10の眺めの方がよいと思います。誰もがそう思うということは、この眺めの評価は人によって違わないということです。つまり、見通しを阻害している樹木を取り除いて、見たいものが見えるようにすることは基本的に賛同されるということです。

何故そういえるのかを説明します。

写真10は、中禅寺展望台からの眺めです。正面奥に男体山が、その手前には中禅寺湖が見えています。見ている人はこの眺めから自分がおおよそどこにいるのかが分かります。これが重要なのです。私たちは常に自分がどこ

にいるのかを把握しようとしています。市街地では案内板やランドマークとなる建物や構造物などを見て、どこにいるのかを確認しています。道に迷ったときは、どこにいるのかわからない状態なので不安になります。私たちが安全に行動するうえで自分がどこにいるのか分かるということは重要なことです。

しかし、山地では、樹林に囲まれており、ランドマークとなるものが少ないのです。樹林の中を長時間歩いていると自分がどこにいるのかよくわからないというのは多くの方が経験したことがあると思います。そういうときに自分の位置がおおよそ分かる情報が得られると安心できるのです。



写真 10 中禅寺湖展望台からの眺め

展望台からは名のある山などを見たいと思います。それは見ることによって自分の位置が分かるからです。したがって、展望台から見たいものとは、ランドマークとなる、山や湖、市街地、大ダム、大橋、道路などです。写真 10 の眺めでは、ランドマークとなる男体山などが見えるので誰もがよいと思うのです。

ただ、それでも伐採を避けたいと思う人は、眺める位置（視点）を伐採しなくてもよい別なところに移せばよいと思うかもしれません。そこで、この視点位置について説明します。

この展望台からは、正面に男体山が仰角 10 度の程よい大きさで見えています。また中禅寺湖の中央部分は俯角 10 度の見やすい位置

にあります。見たい山と湖がともに見やすい、よい眺めになっています。このようなよい眺めは滅多にありません。視点位置がよいのです。ですから、ここからの眺めを復活させる必要があるのです。

3 森林景観整備の進め方

森林景観整備を行う場合は、次の 2 点に留意する必要があります。

一つは、景観整備についての理解を深めることです。もう一つは、自然度の高い山地では樹木の伐採が難しくなるので、実施にあたってはその合意形成を図ることです。これらについて説明します。

景観整備では、視点を設けて、そこから見たいものがよく見えるよう見通しを確保することが重要になります。特に見通しについては、見たいものだけではなく、そのまわりに邪魔なものがないようにすることが大切です。

合意形成については、関係者に説明し、その内容をオープンにすることです。

具体的には、①検討委員会を設置する、②マスコミ（新聞等）を通じて地域の方に情報を提供する、ことです。以上の 2 つを行えば、自信をもって実施することができます。

新聞を通じた情報提供については、地域紙では地域の情報をきめ細かくお知らせしようとしているので積極的に情報提供すれば新聞で紹介されます。私は、景観整備を行うときは全てマスコミに情報提供しましたが、新聞に掲載されなかったことはありませんでした。

どのように掲載されたのか、福島市で行った森林景観整備の事例で説明します。

図 3 は、検討委員会が行った現地検討会の様子が地域紙（福島民友）で紹介されたものです。見出しは、「景観整備 初の検討会」、福島森林管理署が「現状や課題など悦明」となっています。



図3 現地検討会の実施状況が紹介された
(福島民友新聞 平成17年6月17日)

図4は、道の駅つちゆ（土湯温泉町）近くの展望台で行った景観整備が地域紙（福島民報）で紹介されたものです。景観整備の内容は展望台まわりのヤブの刈払いや展望台から大橋が見通せるよう、邪魔な樹木を取り除いたことなどです。新聞の見出しは、「美景復活」、「藪や枝取り払う」となっています。展望台からの見通しをよくすることにより大橋が見えるようになりました。また、この記事を見て、展望台に立ち寄り、大橋や福島市街地を眺める人が増えました。

このように森林景観整備の情報をオープンにすると、自信をもって安心して進めることができます。また、整備後の展望台の利用が促進されます。

おわりに

森林景観整備の難しさは何なのか、また、それを克服するためにはどうすればよいのかを説明しました。さらに詳しくお知りになりたい方は、拙著『森林景観づくり』をご覧に

なって下さい。

なお、景観は見るのが重要です。森林部門技術士会のホームページのお知らせには、本稿のカラー版が掲載されています。カラーで見ると実施内容がよく分かり理解が深まります。是非ご覧になってください。

(よしだ ゆきお)



図4 森林景観整備の実施が紹介された
(福島民報新聞 平成17年10月1日)